

京機会ニュース

京都大学機械系工学会
No.1(創刊号) 1997(平成9)年10月1日

事務局：606-01 京都市左京区京都大学工学研究科機械系工学専攻
電話 075-753-5181 FAX：075-771-7286



目次

「京機会ニュース」創刊の挨拶	1頁
平成9年度京機会総会・秋季大会のご案内	2頁
総会資料1 平成8年度会計報告	3頁
総会資料2 京機会会則改正案	6頁
機械系工学教室百年記念式典及び記念講演会報告	4～6頁
京都大学創立百周年記念公開行事のお知らせ	7頁
京機会からのお知らせ及びお願い	8頁

「京機会ニュース」創刊の挨拶

京都大学機械工学科は平成9年6月18日、創立100周年を迎え、関係教室4専攻長主催のもとで工学部大会議室で「京都大学機械系工学教室百年記念式典」が開催されました。当日は河本、奥島、大東、山田、大矢根、明石の各名誉教授を始め、長尾工学研究科長や吉田工学部評議員、事務部長等の諸氏、卒業生280名を超える参加者の中で、過去を振り返りつつこれからの益々の発展の決意を新たにしました次第です。

創立以来、機械系工学教室からの卒業生は6,000名を超え産業界その他の分野でご活躍になっておられますことは誠に喜ばしいことであります。この期に当たり、

同窓会としての京機会が同窓生同士、同窓生と教室、同窓生と学生とのより親密な情報交換の場を提供するために「京機会ニュース」を創刊することに致しました。長続きするために肩の凝らない内容になるよう心懸けていきたいと考えています。創刊号は、平成9年度京機会総会並びに秋季大会のご案内と、百年記念式典を中心に編集いたしました。

春の総会及び秋の大会のご案内を兼ねて、年に2回ほどニュースをお送りする計画であります。今後、各年度の同窓会の案内や写真等をお送り頂ければ紙面の許す限り掲載いたしたいと考えております。宜しくお願いいたします。(編集委員一同)

平成9年度京機会総会・秋季大会開催のご案内

本大会を下記により開催いたしますので、ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日 時 平成9年11月21日(金) 午後1時より

会 場 トヨタ自動車(株)本社 トヨタ会館
(471-71 愛知県豊田市トヨタ町1番地 電話 0565-23-3939)

集合場所 JR名古屋駅 新幹線改札出口(北,南)すぐ横の壁面テレビ(メディアワン)前
送迎バスにてご案内します

集合時刻 11:40(バス発車時刻 11:45)

昼食を予めお済ませ下さい。また、トヨタに直接行かれる方は12:20に本社トヨタ会館正面
玄関に集合して下さい。その後、元町工場へバスでお送りします。

行 事 (13:00~17:10)

1. 工場見学 トヨタ自動車(株)元町工場 見学終了後トヨタ会館へ移動

2. 総会

(1) 平成8年度会計報告

(2) 会則改正について

(3) 役員選出について

(4) その他

3. 会社側挨拶及び会社概要説明

常務取締役 中川 哲氏(昭和38卒)

4. 技術講演会

(1) 次世代交通システム(ITS)への取り組み

野口 好一氏(昭和48卒)

(2) トヨタハイブリッド車の開発

河村 敬秀氏

(3) コンピュータを活用したサイマルテニアスエンジニアリング

矢野 裕司氏

懇 親 会 (17:50~19:20)

会 場 ホテル フォレスタ (444-22 豊田市岩倉町一本松1番地 電話 0565-58-3500)

会 費 6,000円(懇親会出席者のみ当日大会会場でお支払い下さい)

そ の 他 当日、大会及び懇親会終了後JR名古屋駅へのバスを準備しております。

JR名古屋駅到着は21:00頃の予定です。

準備の都合上10月28日(火)までに同封のはがきにて出欠のご返事をお願いします。

ご出席の場合、バスの手配の関係上、集合場所をご確認の上マークして下さいますようお願いいたします。

なお、当日総会にご出席の際には本ニュースをご持参下さい。

総会資料1 平成8年度収支決算報告 (自平成8年4月1日 至平成9年3月31日)

1. 収入

摘 要	金 額	備 考(明 細)
前期より繰り越し	3,162,783	第一勧銀普通預金 3,110,995 住友銀行普通預金 10,166 現金 40,622
入会金	330,000	98名(平成8年度分) 12名(平成7年度分)
預金利息	11,311	定期預金利息 8,907 第一勧銀普通預金利息 2,394 住友銀行普通預金利息 10
京機会名簿	27,000	平成6年発行分6部売却 学生(@3,000)3部 一般(@6,000)3部
京機会名簿広告料	50,000	平成9年発行名簿広告料
その他	90,145	春季大会懇親会残金 47,459 秋季大会懇親会残金 42,686
合 計	3,671,239	

2. 支出

摘 要	金 額	備 考(明 細)
会員通信費	791,177	春季大会案内状印刷代、発送費 388,036 秋季大会案内状印刷代、発送費 403,141
その他	36,743	名簿作成事務費 30,000 春季大会雑費 6,623 郵便振替手数料(@60)2件 120
合 計	827,920	

3. 次期繰越金(平成9年3月31日現在)

摘 要	金 額
第一勧銀普通預金	2,729,708
住友銀行普通預金	10,176
現金	41,555
郵便振替口座	61,880
合 計	2,843,319

4. 基本金(平成9年3月31日現在)

摘 要	金 額
第一勧銀定期預金	206,535
第一勧銀定期預金(朝永、岡本、金子、菊川、西原、長尾、柿本各基金を含む)	176,995
東洋信託貸付信託預金	600,000
合 計	983,530

京都大学機械系工学教室百年記念式典

平成9年(1997年)6月18日(水)に教室創立百周年の記念式典及び記念講演会が京都大学工学部8号館大会議室を中心に関係教室の主催で開催されました。参加者数は280名を超え当初計画されておりました教室の大講義室を急遽、工学部大会議室に変更するなど開催の準備に当たった教職員は嬉しい悲鳴を上げました。



記念講演会場風景

午後1時30分より2時まで、牧野俊郎機械物理工学専攻長の司会のもと記念式典が行われ、教室を代表して矢部寛精密工学専攻長が挨拶、創立当初から平成5年度の大学院重点化に伴い改組された現状までの歴史を紹介されました。次いで長尾真工学研究科長が、機械工学に課されている課題を述べその解決に向けて期待するものが大である旨の祝辞(6頁に掲載)を述べられました。式典の最後に、エネルギー科学研究科エネルギー変換科学専攻の池上詢教授から機械系教室が創立から2世紀に入ることを記念して「第二世紀事業について」報告がありました。この中で池上教授は6,000名を超える同窓会としての京機会の活性化を図るために京機会のリストラを先ず行い、同会を中心として第一期の卒業生が出た1900年から100年目に当たる西暦2000年に第二世紀事業を開始したい、旨の報告を行いました。

続いて、午後2時から5時近くまで、河本實名誉教授、西八條實(株)島津製作所代表取締役会長、及び浅田春比古マサチューセッツ工科大学教授の3先生の記念講演会が矢部専攻長の司会のもとで開催されました。

河本名誉教授(昭和11卒)は数年前に脳出血で倒れら



れたとのことですが、その後回復されお元気な姿で「機械工学教室の思い出」というタイトルで創立時の朝永正三、大塚要、金子登、松村鶴蔵の各先生、その後の堀寛太郎、濱部源次郎、菊川清作、西原利夫、菅原菅雄、田伏啓三、藤本武助、佐々木外喜雄、長尾不二

夫の各先生方の素顔をユーモア溢れるエピソードを交えながら、創設時の諸先生方の意気込みを話して頂きました。

西八條取締役会長(昭和20卒)は、「一機械屋の歩み



来た道」というタイトルで、昭和17年の大学入学から卒業までの学生時代、社会の情勢についての思い出を先ず語られ、次いで(株)島津製作所に入社以来携わってこられた生産技術と航空機部品の品質管理の問題を話されました。大学の教育に対しては、機械工学の基礎科目にもっと重点を置いた教育をして欲しいことや、技術屋は入社後も勉強の連続であり、大学に入学後の1,2年はのんびりさせて欲しい、そのために本当の意味の教養課程を復活させる、大学を5年生にしてはどうかという注文を出されました。

浅田春比古教授(昭和48卒)はMITの135年の歴史と



重ねながら100年の重みを先ず述べられ、「人と機械と情報—総合学、基礎工学としての機械工学の将来像—」というタイトルで話をされました。1950年代の機械工学の基礎科目である三力を数理学の土台に積み上げるといったエンジニアリング・サイエンスの考え方

から近年行ったmeta engineeringの話と同教授が担当されている講義や、研究所の研究成果などから具体的に説明して頂きました。



新装なった教室の玄関

記念講演会終了後、新装なった8階建ての機械系工学教室の研究棟に足を運び、玄関ロビーに展示された研究室紹介のパネル、講義室、会議室、図書室、実験室、実習工場棟を見学しました。会議室には、名誉教授の肖像写真が、図書室には初期の卒業論文や懐かしい写



ロビーの展示



会議室での展示風景



図書室を見学



都ホテルでの祝賀会風景

真が展示されました。午後6時から蹴上にある都ホテルの葵殿で島進機械工学専攻教授(昭和40卒)及び塩路昌宏エネルギー変換科学専攻専攻長(昭50卒)の司会のもと百年祝賀会が開催されました。懇親会には180名を越す同窓生が参加、万波通彦機械物理工学専攻教授(昭和32卒、図書館長)が教室を代表して挨拶、長尾工学研究科長、及び奥島啓式名誉教授(昭和12卒)が祝辞を述べられ、平松雪郎大先輩(昭和5卒)の乾杯の音頭で懇親の輪が広がりました。



(左上) 万波通彦教授 (右上) 長尾 真 工学研究科長
(左下) 奥島啓式名誉教授 (右下) 平松雪郎氏

祝賀会半ばで、駒井謙治郎機械工学専攻教授(昭38卒、工学部評議員)のスライドショーがあり、教室に残っている建物や学生服、設備等の古い写真が紹介され、参会者一同学生時代に戻ることができました。最後に、当日台湾から参加された蔡東華氏(昭和20卒)及び、仲本豊一先輩(昭和10卒)の思い出話があり、午後8時散会しました。

なお、当日の記念式典における矢部教授の挨拶、長尾研究科長の祝辞、池上教授の挨拶、及び記念講演会の3先生の講演内容はインターネットのホームページに掲載する予定にしております。ご覧頂ければ幸いです。

記念式典における長尾真工学研究科長の祝辞

京都大学機械系工学教室100年記念式典に当たり一言お祝いの言葉を申し上げます。

機械工学教室は明治30年、京都大学の創立と共に理工科大学機械工学科として作られました。発足時には三講座でありましたが、産業の発展に伴って講座を増設して行き特に戦後の技術革新に伴う社会的要請を受けて昭和35年には精密工学科、また、昭和37年には機械工学第二学科が作られ、今日の機械工学関係学科の基礎が築かれました。その後種々の発展がありましたが、平成6年度の大学院重点化改組によって、学部は関係学科と合併し物理工学科となり、学生に機械工学関係の広い学問的基礎を学ばせることになりました。大学院においては機械工学専攻、精密工学専攻、機械物理工学専攻、更にエネルギー科学研究科エネルギー変換科学専攻という形で多様な発展を遂げておられます。

機械系工学教室は創立以来100年間に多数の卒業生を世に送り出すと共に多くの優れた研究成果を挙げ、我が国の産業界、ひいては我が国社会全体の発展に対して寄与してこれらた功績は誠に大なるものがあります。

機械工学分野は機械のメカニズム、材料、熱、流体などの他に近年は自動制御、そして最近ではマイクロマシン、知能機

械、生体のメカニズムにまで広がってきておりまして、従来の伝統的な機械という言葉からは想像できない多彩な内容を包含しながら発展してきております。21世紀という新しい時代を迎え、機械工学はコンピューター、情報技術、生体工学あるいは脳機能の研究などと更に密接な結びつきをもって総合の学として発展することが期待されております。ただ、21世紀は技術あるいは工学全般にとって決してバラ色の時代ではありません。エネルギー問題、地球環境問題、人口問題など解決の非常に困難な問題が山積しております。これらの多くは20世紀における工学の発展によって結果的にもたらされたものとも言えるわけでありまして。従って21世紀の工学はこれらの諸問題を解決していくことに重点を移したものとなって行くべきものでありましょう。

工学の柱の一つである機械系工学分野の皆様方がこれからの社会を人間にとって本当に安心して住める場所にしていくという大きな使命を担って次の100年のスタートを切っていただきますことを願いたします。

機械系工学教室の100年のおめでたい時に当たりお祝いを申し上げますと共にこれからの益々のご発展を念じまして私のご挨拶と致します。

総会資料2

京都大学機械系工学会会則(改正案)

- 第1条 本会は京都大学機械系工学会(略称:京機會)と称する。事務局を京都大学大学院工学研究科機械系工学専攻に置く。
- 第2条 本会はその母体となる専攻と関連する研究の発展を図り、更に会員相互の親睦を図ることを以てその目的とする。
- 第3条 本会は京都大学機械系工学教室(専攻)及び関連教室(専攻、学科)出身者、教官及び元教官を以て構成する。
- 第4条 会員は年会費(額は別に定める)を納入する。
- 第5条 次の役員を置く。
- | | |
|------------|-----|
| 会長 | 1名 |
| 副会長 | 若干名 |
| 評議員(年度別幹事) | 若干名 |
| 監事 | 2名 |
| 幹事 | 若干名 |
- 第2項 会長および副会長は総会において選出する。
- 第3項 その他の役員は会長が指名する。
- 第4項 役員任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
- 第6条 本会は年度毎に以下の活動を行う。
- 総会開催(1回)
 - 大会開催
 - ニューズレター発行(1回以上)
 - 卒業生名簿発行(数年に1回)
 - その他、本会の目的に沿う諸活動
- 第7条 本会に特別委員会を置くことができる。
- 第8条 国内外の地区毎に本会の支部を置くことがで

きる。

第9条 本会則の改正は総会において行う。

付則 本会則は年月日の総会において議決され、同日発効した。

付則2 平成年間、学部3回生進学時に会費を納入した会員については、第4条における会費徴収に関して経過措置を講ずる。

参考 現行「京都大学機械系工学会会則」

- 第1条 本会は京都大学機械系工学会と称する。
- 第2条 本会は機械工学に関する事項の研究発展を期しかねて会員相互の親睦を図るを以て目的とする。
- 第3条 本会会員は京都大学機械工学科、精密工学科及び物理工学科の教官並びに機械工学科、精密工学科、機械工学第二学科及び物理工学科の卒業生、学生とする。ただし、機械工学、精密工学、機械工学第二学科及び物理工学専攻の大学院学生は希望によって会員であることができる。
- 第4条 本会会員は入会に際し、会費として金3,000円を納めるものとする。
- 第5条 本会事務を処理する為会員中より幹事若干名を推薦する。ただし、任期は1カ年とする。
- 第6条 本会の目的を達する為に年1回の総会及び数度の会合を催す。ただし、本条のために要する費用は別にこれを徴収する。
- 第7条 寄贈論文の印刷頒布、会員名簿の発行などに際しては会費以外の臨時費用を徴収することがある。
- 第8条 規則の改正は総会の決議による。
- 第9条 本会の基礎をきょう固ならしめるために基本金を置く。ただし、基本金は会員の寄付による。

京都大学創立百周年記念 公開行事のご案内

機械系工学教室では創立100周年の式典及び記念講演会を去る6月18日に行いましたが、大学の創立百周年の記念の公開行事が次のように行われます。

1. 記念式典 H.9.11.2 京都会館
2. 記念祝賀会 H.9.11.2 京都市勲業会館
3. 記念公開講座 H.9.10.18 京都市産業会館
「知の最前線は今—日本の文化と風土—」
講師 日高 敏隆氏・河合 隼雄氏
4. 記念特別講演会 H.9.11.3 京都テルサホテル
「20世紀から新世紀へ」
講師 ユルゲン・ハーバマス氏
シドニー・ブレンナー氏
5. 記念シンポジウム H.9.11.3 京都テルサホテル
「20世紀から新世紀へ—知の軌跡と大学の可能性」
パネリスト 利根川 進氏・森嶋 通夫氏

廣中 平祐氏・藤澤 令夫氏

6. 記念音楽会 H.9.11.1 京都コンサートホール
7. 記念地域講演会

名古屋講演会 H.9.10.4 名古屋国際会議場
大阪講演会 H.10.2.21 大阪ガスビル
東京講演会 開催に向け検討中

以上の各種行事はいずれも卒業生、一般市民の人も参加できますが会場の都合上人数制限があり、このニュースを入手される頃には申し込みの締め切りが過ぎております。詳細な情報を入手希望の方は、全体の行事を統括している京都大学事務局庶務課(電話 075-753-2028)にお問い合わせ下さい。

8. 記念展覧会
「知的生産の伝統と未来」というテーマで京都大学総合博物館と付属図書館を主会場として学内6エリアで適宜、展示、実演等を行います。会場、テーマ、会期、等は次の通りです。

会場	テーマ	開催期日	備考
総合博物館		10.28～11.24	11.10,11.17は休館します
付属図書館	創立期の京都大学・若人たち	10.28～11.24	11.10,11.17は休館します
総合人間学部	科学技術と人間生存の調和	10.28～11.14	9:30～16:30
理学研究科	ミニ博物館・最新データを併陳	11.18～11.24	理学部1号館5階
基礎物理学研究所	湯川博士の業績と理論物理学の系譜と展望	11.22～11.24	湯川記念館
大型計算機センター	スパコンの可視化、超高速通信	11.22～11.23	センター1階ロビー
工学研究科	知的生産と未来を拓くテクノロジー	11.17～11.24	一部会場は期間に限定があります
地球系専攻	土木歴史資料の展示	11.17～11.24	土木系教室
建築系専攻	建築・標本模型、建築図面展示	11.21～11.23	建築学教室
電気・情報系専攻	展示とパソコンによるデモ	11.19,11.23	応用システムは11.17～23
工業化学系専攻	ボード展示	11.17～11.24	
物理工学系専攻	ボード展示とデモ	11.17～11.24	実験室見学、デモは11.22,23のみ
機械系教室の実験室、実習工場の見学、RI実験棟の装置見学、磁気浮上実験、等を行います ボード展示、実験室等の見学は新装なった8階建ての物理系工学教室新館です			
エネルギー科学研究科	ボード展示	11.17～11.24	物理系工学教室新館
宇治キャンパス	5研究所	11.13～11.15	11.15は全会場開場
埋蔵文化財センター	大学構内からの出土資料展示	11.10～11.24	付属図書館西隣の尊徳堂

◎機械系工学教室に直接関係のある展示は上記の中の工学研究科物理系工学専攻およびエネルギー科学研究科のボード展示および実験室等の見学です。6月18日の教室100年記念式の際に見落とされた方は是非お出で下さい。お待ちしております。

◎「京都大学の百年」と題する京都大学百周年記念映画が作成されました。この映画のVHSビデオ版の予約をなされたい方は岩波映画原宿分室まで電話かFAXでお申し込み下さい。(電話 03-3470-7442 FAX 03-5771-7566)

京機会からの お知らせとお願い

京機会会員名簿：京機会会員名簿が平成9年3月に新しく発行されました。京都大学100周年記念として「機械工学関連教室・専攻 小史」(26頁)が掲載されています。未購入の方は総会・大会出欠の返信はがきに購入希望の旨をご記入の上ご投函下さい。なお、価格は8,000円です。支払いは名簿に折り込みの払い込み用紙でお願いいたします。

原稿募集：京機会ニュースへの原稿を募集しております。同窓会の開催案内や同窓会の集合写真、会員に知らせたいと思われる情報などをお送り下さい。紙面の都合で割愛したり、縮小することもあります。その点は予めご了承願います。宛先は教室の「京機会事務局」で結構です。尚、発行は春秋の総会・大会の約1月前になることもご了承下さい。

広告募集：京機会ニュースの印刷費、発送費を補うために広告を募集いたします。このニュースは卒業生(4500名)、教室教職員(100名)、関連教室の大学院及び学部学生(400名)に配布いたします。また、広告掲載料は下表のように致したいと考えております。

A4判1頁大	80,000円
A4判半頁大	50,000円
A4判1/4頁大	30,000円
A4判1/8頁大	15,000円

新教官の紹介：平成9年4月に赤松映明教授(昭和31卒)が定年退官され、現在摂南大学工学部において研究教育を続けて居られます。また、留学生担当の尾中晋講師(東工大昭和60修士)は東京工業大学に新設された総合理工研究科物質科学創造専攻の助教授として転出されました。設計演習担当の藤村威明講師(東大昭和31卒)も4月1日付けで定年退官されました。各先生方に感謝すると共に今後のご活躍をお祈りいたします。

4月以降機械系関連教室に新しく転任して来られました先生を簡単にご紹介いたします。

堤三佳助手：堤先生は平成4年機械系工学科を卒業後、大学院に進学、平成9年3月博士課程を終了、平成9年4月1日エネルギー科学研究科エネルギー変換科学専攻の助手に就任されました。所属は同専攻エネルギー機能設計学講座エネルギー材料設計分野であります。



蓮尾昌裕助教授：蓮尾先生は京都大学大学院修士課程



物理工学専攻を終了後、科学技術庁に就職、その後東京大学理学部物理学教室の助手を経て平成9年7月1日付けで工学研究科機械物理工学専攻の助教授に就任されました。同専攻物性工学講座に所属され固体応用光学を専門とされています。

加畑博幸助手：加畑先生は平成2年に福井大学工学部



応用反応化学科を卒業、同大学大学院修士課程を終了後、総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻博士課程に入学され、平成7年に博士(理学)を取得後、国立遺伝学研究所のCOE研究員になられ、平成9年8月1日より機械工学専攻マイクロマシン工学研究室の助手になられました。

手島清美講師：手島先生は昭和37年東京工業大学理工



学部機械工学科を卒業後三井造船(株)に入社され、主としてガスタービンを中心に研究、設計の業務に携わってこられました。平成9年9月1日付けで機械工学専攻に講師として着任されました。藤村先生の後任として設計演習を担当していただきます。

旧新館の取り壊し作業始まる：昭和11年に建てられた通称「旧新館」の取り壊しが8月末より始まりました。跡地には引き続き8階建ての材料工学専攻と機械系工学専攻の研究実験棟が建設されます。これで昭和20年以前に建てられた機械系教室関連の建物は全て姿を消すことになりました。

平成9年度京機会幹事：京都大学機械系工学会会則第5条による「本会事務を処理するため」の幹事は次の通りです。

京都大学	教授	矢部 寛(昭和35卒)
同上	教授	藤本 孝(昭和39卒)
同上	助教授	Motamed Ektesabi Ali (昭和53卒)
同上	助教授	箕島弘二(昭和54卒)
同上	教授	松久 寛(昭和45卒)名簿担当